



んだじゅ通信 Vol.1

Contents

1. あいさつ
2. 認定看護師の紹介
3. 第2回医療連携懇談会の報告
4. 電子カルテ稼動に向けてのお願い

山形県立新庄病院地域医療部
平成25年11月発行

1. んだじゅ通信(地域医療部たより)の発行にあたっての挨拶

副院長(兼)地域医療部長 八戸茂美



紅葉もはや色あせ、近くに冬の気配を感じる頃となりました。地域の皆様方におかれましては、日頃より当院の地域医療にご支援、ご協力いただき深く感謝申し上げます。

先の医師会理事会の席で「新庄病院異動医師の知らせが途絶えて久しい」とのご指摘をいただいたことを機に、このたび県立新庄病院地域医療部では、地域の医療機関の皆様方への情報提供活動の一環として「んだじゅ通信 Vol. 1」を発刊する運びとなりました。ネーミングにスタッフ一同の熱い思い(?)を込めました。

当院地域医療部は、最上地域の基幹病院として地域連携を図るとともに住民への高質で継続的な医療を提供すべく、平成16年に「地域医療室」として設置されました。県内他地域と比べ、地理的・社会的条件からも地域一体性の強い最上地域には、より一層の地域完結型医療が求められます。これを受け設置来掲げてきた主な目標は、1. 医療機関、福祉施設等との連携、患者情報共有化、2. 一次、二次医療機関の診療機能分担促進、3. 在宅介護の推進、4. 地域医療・看護水準の相互向上を図るべく情報交換会の開催であります。これらは約10年を経て皆様のご理解、ご協力のもと着実に実を結びつつあります。

すなわち、平成24年度に構築稼働された『もがみネット』は現在参加施設が12施設に達し、加えて今年度は皆様からのご要望の強かった「放射線科レポート」「心カテ・アンギオ」「生理検査」「内視鏡レポート」も公開する予定です。また、ご紹介患者数も順当に増加し、これには逆紹介の推進と100%



の返書率でお応えするのが責務と感じております。さらに、スタッフ不足ながらも退院支援・退院調整の円滑化については殊更力を注いでいるところです。これを受け、今年度初めて開催された「訪問看護ステーションとの意見交換会」では盛会ながらも今後の問題点をも指摘していただきました。そして去る11月5日に開催された第2回医療連携懇談会では、貴重なご講演をいただくとともに、皆様方との「顔の見える」連携を築いていくことの重要性を再確認しました。

「地域医療連携」は決して数値目標の達成で得られるものではなく、眼前の患者にとって、誰が、何処で、どのように診るのが一番幸せなのかを第一義に考え臨機応変に対応する、仮に専門外の疾患でも臆せず診察し、かつ善処したことで患者家族と共に喜び合える、紹介の際には転院先の状況も慮り、かつ互いにフィードバックする、そして異業職交流にも積極的に参加し気が付けば周りに友人が日に日に増えていく、こんな身近なことを各々が意識することで地域連携は少しずつ変わっていく気がするのです。

今後は「んだじゅ通信」を通して、当院の地域医療に関する情報、取り組み等を紹介していきたいと思っておりますのでどうぞ皆様方の診療の一助となれば幸いです。

2. 認定看護師の紹介

当院の認定看護師を紹介します。

現在は、小野 皮膚・排泄ケア認定看護師（左下）、庄司 がん化学療法看護認定看護師（右下）、大類 感染管理認定看護師（左上）、斉藤 緩和ケア認定看護師（右上）の4名が認定看護師として専門分野で活躍しています。

残念ながら、今回は各認定看護師が行っていることと等を紹介するスペースがありませんが、それぞれ院内に限らず、地域での教育活動や連携活動にも熱心に取り組んでいます。

地域医療活動の中で、皆様方と協力してよりよい医療を目指していきたいと思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。





3. 第2回医療連携懇談会の報告

去る11月5日(火)、地域の医療機関の先生方23名及び当院職員29名(うち医師15名)の参加のもと、第2回医療連携懇談会を開催しました。「地域の病病連携・病診連携の一層の推進を図ること。」を目的として、昨年度より医療連携懇談会を開催しています。

第1回目は当院主催で行いましたが、このたびは新庄市最上郡医師会にご協力をいただき、新庄市最上郡医師会と当院との共催という形で開催しました。

会議次第

1. 開会
 2. あいさつ 県立新庄病院院長
新庄市最上郡医師会会長
 3. 講演
(1) 県立新庄病院 高橋瑞保 主任管理栄養士
(2) 土田医院 土田秀也 院長
(3) 大蔵村診療所 荒川光昭 所長
 4. その他意見交換会
 5. 閉会
- 会議終了後、懇親会を開催



■当院 鈴木知信院長 挨拶

「紹介・逆紹介を増やしたい、特に逆紹介をいっそう増やしたいと思っている。地域の医療機関の皆様方と協力し、地域完結型の医療を目指したい。」と挨拶しました。



■新庄市最上郡医師会 山科昭雄会長 挨拶

「在宅医療の大切さが増している。医師会でも今後の進め方を検討しており、地域に貢献したい思いがある。多職種での連携も重要であり、最上地域に合った形での在宅医療を行えるようにしていきたい。」との挨拶をいただきました。



■講演「最上地域における在宅医療と県立新庄病院との関係について」

全国的に推進されている在宅医療についての理解を深めるため、新庄市最上郡で在宅医療に尽力されている土田医院の土田先生と大蔵村診療所の荒川先生、今年度より NST の管理栄養士として、栄養管理の面から退院支援へ協力をしている当院栄養管理科の高橋さんの3名にご講演いただきました。

(1) 県立新庄病院 高橋瑞保 主任管理栄養士

「良くならない患者を良くするのは栄養の力かもしれない。NST（栄養サポートチーム）で患者さんの栄養を管理することによって、治療効果を高めている。退院後に栄養管理が必要な患者さんに対しては、退院前カンファレンスに参加し、栄養指導をすることで地域につなぐ役割を果たしていきたい。」と説明しました。



(2) 土田医院 土田秀也 院長

「昨年から特養の嘱託医を引き受けたため、施設での看取りが増えている。全国的にも施設での看取りが増加しているが、最上地域は横ばいの状態である。

2025年問題や2050年に100歳人口が70万人を超えると予想されているため、医療資源と医療経済の面から考えて、在宅医療を推進することが重要である。」と教えてくださいました。



(3) 大蔵村診療所 荒川光昭 所長

「自分が過ごしたい場所で過ごすことが一番生活の質が高い。地域を病棟ととらえ、24時間365日の安心を提供し、生活と医療を多職種で支えることで家族の負担を軽減している。在宅医療を支えるのは多職種の『在宅チーム』であり、お互いに顔の見える関係を構築し、意識の共有を図ることが在宅医療の鍵である。」と教えてくださいました。





■その他意見交換会



第二部の時間に迫っており、十分な時間を取ることはできませんでしたが、座長の八戸副院長（兼）地域医療部長から、地域の先生方に、①12月1日に電子カルテが稼動するための準備として、11月29日（金）は外来診療が休診となること。また、稼動当初は診療に時間がかかることが予想されるためご迷惑をおかけすること。②結核疑い等の感染症の患者の紹介時には、事前に一報いただきたいこと。以上2つをお願いしました。

ご迷惑をおかけすること。②結核疑い等の感染症の患者の紹介時には、事前に一報いただきたいこと。以上2つをお願いしました。

ご協力よろしく申し上げます。

■懇親会



尾花沢市・大石田町の先生からもご参加いただき、地域の先生と当院の先生の間で「地域の医療」を考える一場面となりました。

—ご参加いただきありがとうございました。—